

同じようなことが名前を変えて登場し、
少しずつ意味を広げることが多いのが数学です。

ここでは

平均変化率

次の § では導関数。

意味が広がっていきませんが、

前の意味が消えたわけではありません。

次の §05 の導関数も

傾きの意味がなくなってしまった

ということはないのです。

中学1年で グラフの傾き と呼んでいたものが、
中学2年で 変化の割合 と呼び、
中学3年では 変化の割合が変化する となり、
数学Iでは、 平均変化率 ともう少し幅を広げ
数学IIでは 接線を示し、導関数とさらに広がる。
しかし、全ては全てに繋がります。

数学IIの導関数と

中学1年のグラフの傾きは
言葉は違いますが
同様のことも表します。

ただ、**意味の広がりがある**
ということです。

名前が違ったら、
全く違ったものを表す
ということではないのです。